

共に高め合い、さらなる進化を



代表取締役社長 今村 善信氏

大電産業

福井市春山1-6-15

昨年は国内での半導体工場やデータセンターの建設ラッシュを背景に、幹線ケーブルの需要が急増した。「工事が集中する年度末にかけて、しばらくは品薄となる可能性が高い。お客さまやメーカーと密に連携を取り、適切に対応していききたい」と気を引き締める。

県内企業の設備投資は、北陸新幹線の延伸とともに一段落した。また、部材や商品の在庫調整と資材価格・人件費の上昇を背景に、全国的に新規設備投資は模様眺めの状況が続いている。先行きは不透明なままだ。

そのような中、蛍光灯の製造・輸出入が禁止となる「2027年問題」が近づいている。「正確な情報提供を続けていくとともに、丁寧なコミュニケーションを通して、お客さまに寄り添っていききたい」と力を込める。

「制御のエンジニアリング会社」としての認知拡大を狙い、昨年も北陸技術交流テクノフェアに出展。産業用ロボットなどいくつかの体感できるデモ機を展示し、見せるだけでなく、伝えることにも重点を置いた。「結果としてブースへの来訪者数、滞在時間ともに前年より増え、反響も大きかった。県外企業からも引き合いがあり、ビジネスチャンスの広がりを実感している」と工夫への手応えを語る。

社内では、人材育成に注力し足元を固める。「展示会でのデモ機の開発や業務プロセス改革は、若手や中堅に中心となって進めてもらっている。組織横断的なプロジェクトチームとして活動する中で、業務や個性などの相互理解を深められている。社員一人一人が認め合い、高め合う組織としてさらなる進化をした」と期待を寄せる。